

繪本通俗排悶錄 前編 壹

改訂

特
遠21
1.192
1.



告白

凡そ此の巻中見返ハ勿論其他ありて聊の余白あれば
或ハ猥褻なる畫圖を寫し或ハ卑俚ある語辭を書し
其の甚しきに至る挿圖を彩りて却之を宛きのみあり
塗抹して以て其の何れをも解き能ざるも至る者あり
何ぞ其れ思はざる其甚しき乎夫れ此書籍ハ我が貸し
以て業とあり所のものなり故之を宛かざるも於て頗る
營業ハ損害あり營業ハ損害あるに於て之れハ償金を
要せざる可らば仍て豫め此ハ告白し置と云爾

新稿

長門屋主人識

長門

遠門
1192
巻

夫れ此の巻中見返ハ勿論其他ありて聊の余白あれば
或ハ猥褻なる畫圖を寫し或ハ卑俚ある語辭を書し
其の甚しきに至る挿圖を彩りて却之を宛きのみあり
塗抹して以て其の何れをも解き能ざるも至る者あり
何ぞ其れ思はざる其甚しき乎夫れ此書籍ハ我が貸し
以て業とあり所のものなり故之を宛かざるも於て頗る
營業ハ損害あり營業ハ損害あるに於て之れハ償金を
要せざる可らば仍て豫め此ハ告白し置と云爾

永念父母之德孝好之也
君親一體比之君親之也
因親之之款曰親之好者
六一五七廿廿廿廿廿廿
子孫之於父母之也
之之親之也

之親之也
母之也
也
之也
也
也
也
也

孔隆初心法心同

二德坎心正如付影

梅丘齋子書

通俗批詞叙

六梅園何以歌學心於世之日久矣都
下等應子里奇書以求至之之也去也
呵託與心乞燕成之許去蟻集之
謂以風流之味矣翁博德如情之書
此用東印之德淨西上之書
我丈人破障而笑激情為雷之謂又的

言德之味之可耐時功于某君以清人
孫洙抗回深十二寸求海角其積其
之摘取以清二三有子曾也其可執同者
益於世道人心者其味益慷慨激世之
士每有有所憤問與而抑之其味益
凌披其稿在送年謀釋以於世之學其
之味益其出彼者子也其烈婦我使以

其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以
其味益其出彼者子也其烈婦我使以

一言於表端

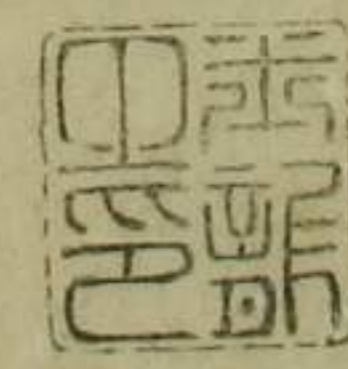
文政丙戌孟冬大村顛撰于鏡湖南

港適園



應月之由君需

本岡抄書



排同録とてきりしむ事され如ん可
まうしうしうたしうしう某の
夫の所より仰也おんせのひらもん
うさそわりのひがしをわらぬんよ
のふたさきまのふより筆さうりあり
如ん可月のんし先よしくそりのふさ
をさうしうしうしうね艸福さうり
のりさのりわらわらぬぬぬぬぬぬ

そつりいりていさかよひの及某の
為まじりひきまじりしともいふ
あひかりのれよまきひかん
ひいりあつらふよちてかつり
てわらわの木とらけつ梅を
ららりりりりりりりりりりりり
もいりりりりりりりりりりりり
ららりりりりりりりりりりりり

ちちちちちちちちちちちちちち
くのりりりりりりりりりりりり
ひりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

梅園

通 信 排 閱 錄
 第 一 輯 全 本
 六 卷 總 目 錄



卷 一 之 一

孝行之部

啞孝子
 孝丐
 鬼孝子
 冷孝子
 于江
 珊瑚

卷 二 之 一

忠義之部

張夫子 閻典史 張駘 歐敬竹 石士鳳
 凌國俊等九人 蕭効用 孔四郎 費宮人
 呂尼 瓊枝曼仙 義象塚 義牛 義馬
 秦氏犬 義犬 毘陵猴 義鶴 龜

卷 三 之 一

貞烈之部

黃善聰 倪氏 嚴貞烈 張貞女 許烈婦
 二烈 張烈婦 鄭氏 徽賈妻妾 林氏
 金三妻 汪來姐 秀水賊犯女 劉盼春
 高三 許氏鶴 鷄

卷之四

友愛之部

張誠
仇大娘

武君仕
童氏犬

達州民

高誼之部

熊公 武林高士 張文 雪遭 董繼芳
新安商 陸采侯 王福徵 旅次監生 哈九
黃中 寶婺生傳

卷之五

卷之六

琦行之部

龔翊 張復 蘇門三賢 劉以平 韓擘
張二 亞璽 趙遜 安成乞 徐妙錦
萬義頴 沈雲英 賣腐人女 益都人妾
通俗排悶錄前輯總目畢

通俗排悶錄後輯題目

明斷之部 義俠之部 玩世之部 仙緣之部 靈異之部
總計本數十有二冊

通俗排悶録卷之一

孝行之部

目錄

啞孝子

孝巧

鬼孝子

冷孝子

于江

珊瑚

通俗排悶録卷之一

孝行之部

啞孝子

崔長生 崔ハ姓 邳州 國の名 の人なり。生とき瘡あり共。其性至孝なり。時の

人啞孝子と云ふ。此孝子。啞と云ふ人。みえ聲なく。入るも出るも。さし痛工

をす。其父母を養ふ。常々家を出入するも。必ず父母を見えざるなり。己

亥の歳。淮徐 地名 の間。五穀熟せざり。これを。孝子市ふ。食を乞ふ。人是を憐む。

糟糠糝糶の類を。與ふ。受て。簞の中へ入置き。我ハ草を掘り。木皮を剥く

食と。家へ歸り。足を疾る。父と病む。母を扶く。糝糶の下中。糝中の物を

取出し。父母へ進む。斯する日。みえ。簞常々空し。後。父母是れ依る

六樹園翁

佐藤静夫

譯

全亭正直 校

死せざりて在る。孝子途を行ぬ文字書るる及古を落散るる必
 是を拾ひて。朝日十五日の時必至りて先聖を祭るる
 下に行とかの字蹟を焼く其燼をとりて黄河の流にまきとる一日拾ひ
 一紙中の遺金あり失る人ありと守りて失る人を待とも其人を見む
 一月過ると此金ゆく母屍を買ひ飼やとる此屍ありて子を生つけぬ
 ゆく遂に父母の衣棺をも作らり是より前知州事ある孫侯賢といふ人
 官ぬ在ると卒に卒に本國に歸葬せんとするに交遊の者一人も葬送る者
 らるに此孝子一人靈輿を拜し徒跣ゆく百里の遠きを送行くと返り来け
 ず其父母歿せる時哭し慟く三日食せず自柩を昇り中野に葬る後其
 終る所を知らざるとん

孝丐

丐其邑里を知らざり明の孝宗の時呉の市ぬ在ると乞食を此丐得る所
 の食大方の食を乞ふと乞ふも分と竹の筒又篋の中貯ふ見る者不審
 ぬ心ひく其故を尋けし丐が曰吾母あり是ぬ遣らんが為ると云けり
 事を好む者其説の實否を窮めんと跡ぬ付き行くとる一里許
 ありて川岸の竹樹をめぐり岸邊ぬ舟ありて柳の陰に繫る舟を
 覗けしと乞ふと潔げり老嫗一人其中に座せり丐地ぬ坐し貯る
 飲食を乞ふと乞ふと整へて乞ふ捧ぐ舟ぬ登り酒食を陳ぬ跪て母ぬ進む母
 の杯を擧ると同と起て唱歌し児の如く戯る母を娛む叔其母のあり
 ざるを哀れんと樂く心よがる母食し止るが又外ぬ乞ふ食を求む一日

例の如く亡ありけども食を得ざりしと懃るる其甚なりし沈孟淵と云
 隱君子ありなり是と食を與へる上少く助力しとぞ遺るる巧の事
 已餓と云ども母の食を與へる以前も聊も食ふ事をせし斯る事
 年わりの母遂に死する巧と云より行方なくなりぬ此巧もつら沈姓
 ありと云る年ハ二十をりゆとぞ在りと云

鬼孝子

閩中名鬼孝子と云者ありた生と七八歳の比父の外に在て死
 家ニ畜へる糧あり孝子幼少るが己が力の限をかりて業を勤く母
 孤養ふと母をり其室ニ安らるる外の外に他志あり孝子や
 死せんとする比某氏の女を聘を遣り置るる事らざりしが想

孝子疾めり身とせぬ是より母一人のむ所ありとありし鄰人某
 かの母を娶んと思と媒者を呼と曰汝鄰の婦人と言へ汝が夫死しと年
 父く汝が子又卒と亡びぬ汝が家三尺の童ごありその上衣食ちり是を
 汝何を以自終らんとするや吾汝と老を偕めせんと欲と汝を是を許さんや
 媒者此を聞くと悉其母は告ぐ母の意は成許さんと云る此夜母の室
 中ニ孝子の声鳴々然と一と榻を環り母は告と曰兒死せりと雖兒が
 公の死せど死せど兒と母と其形ハ相隔と云ども其魂ハ相依と云り今隣人吾母
 と奪んるとも吾母持是を許さんと一玉ふや母驚くと哭と曰身を失する
 豈吾の志あるんや始に汝が父死玉ども汝わらく吾を養へり死今汝
 死せり吾も何ぞ頼ん汝我が為謀は我何を以て世を渡らん孝子

曰兒が生る時寔ぬ力を以て母を養へり其時餘力ありと某氏の女と聘せり
兒不幸ぬしく早く身まうりて母の依玉ふ所多し某氏吾聘物を歸せ
ぬく母の爲ぬ計るべし母曰某氏聘物を歸せど如何ぬせん孝子曰
兒彼ぬ語るべしといふ此夜とて一と某が家ぬ異ある事ありて驚くこと
ぬ受て聘物を倍償く其母は歸りて此財ぬよりの月日を送りて云
羊むり経て財皆ちりたりぬ母は孝子の魂を呼く之は告げぬ孝
子曰兒生るとく力を以て吾母を養へり死るとも亦た力を以て吾母を
養へべし母が云汝すべぬ鬼とありといふぞ力を以て我を養へり孝子曰母
市中ぬ行くと物擔者をえりて語て告べし汝平日擔てその荷を倍しと
擔へ吾兒汝を佐くべしと云玉へ母其より市中ぬ入ると擔者ぬ逢くと云くと

啓る擔者の曰汝が兒までぬ死せりいづく吾擔て物物を佐えぬや母は是
を試よと云擔者つひぬ一倍の荷を擔るぬ孝子陰ぬ添くと佐る故ぬ擔
者疾走する平日の如し因と得る所の錢を以て半を其母ぬ與ふ孝子
日々ぬ擔者を佐るは母是が爲ぬ安く世をこころと死ぬ至りたりとぞ
嗚呼孝子あるぬ父死ると後うく母を養へり身死ると後うく精魂其
母を周旋しと母とて生平の節を全くせりぬ其上死力を以て荷を持て
母を養へり老ぬ至らむも孝子の徳を死の間ぞり所あるなり

冷孝子

冷孝子ハ名を昇と云く益都顔神鎮の人ゆく諸生儒者あり父の植元
名遠遊を好むと明の崇禎十二年己卯歲嶺表地ぬ行くと歸らば夫

より世の代々あゆむ兵亂の爲に隔らんと二十年ゆり及び是れ孝子想
とらんと肇慶道の趙君韞趙氏の入 君韞の名身を寄と従と端州の行と父の在
所を訪んとと或日山東の人喬某と云者西粵の方へ往んとと聞と孝子
後んおろふ父の行方を尋問ん事を頼む其より一年を経と喬某返来と
曰微ぬ聞ぬ足下の父は龍洲の土司庄とありと致せんとと云孝子聞と趙
君韞を辭し別を告とと先將河江江の名と湖と二百七十餘の難を
歴と横州と南寧地名又遷隆思明地名を経と行事五千里をり茲
ゆりかとの人蔡氏鄭氏の二叟の遇ふ此兩人を父と共に奮龍洲の土司を勤
る者あり其より連と往と又葬師の譚姓る者あり遇とと
みと龍洲の北門ある交帶橋の側ぬ於と父の櫬を見る夏を得と骸骨

を負と家の婦より孝子自其始末を叙と龍洲扶櫬記と云文を作と
于江
郷民ふ于江と云者あり其父田間と宿と計らと狼ぬ食る時ふ于江が
年十六あり父の履跡を遺とををんと悲泣とて死せんとと夜ぬの
母の寢ぬを俟と潜ぬ鉄錘錘謂之權和名抄を持と家を出父の死せ處
行と父の讎を報とんと少間ありとツの狼来と立ちとわつと于江を喚
ゆととむ于江身を動と居と尾を揺と額を掃と又ら
むきと于江が股を舐と身を動とを見と躍と来と其
額を舐とと于江を以と狼の腦を繫と立とぬ斃と
取と草むの中ぬ入と少間ありと又ツの狼出来ぬ前の如くと



五國志卷之十一



孝巧吳の
市中亦在
く母茂敵
船よる
あふ圖

持扇金卷之二

おもをも斃し干江臥て夜半の至とて狼のく来ざり少く睡る程
 お夢の父の来と曰汝二ツの狼を殺さ少く我恨をなせりとも我と
 殺せらぬの彼二物のあざむき自鼻の白狼を我讎と云干江夢を
 又臥て夜の明るやぞ待居とて来ざりえれを得り二物を曳て帰ら
 とせしが母の驚死多らん事を恐とて諸を皆井の投入とて帰らぬ其
 夜復彼處の性と俟ぬ亦至るのあり斯るる三四夜ぬと忽ち二ツの狼
 出来と干江が足を齧と曳き行くと數歩と棘の肉を刺さ石ぬ膚
 を傷とて干江あえ忍びと死せる者のやねをを狼干江を地上の置と
 やぶ腹を斫んとする時驟に鏝を以て打仆し連ね打と遂に殺せりとも
 視且真の白鼻の狼の負て家ぬ帰り始と母告とて母は泣て

喜々りきと共の皆井の至とて二狼を探と帰て来ると母

珊瑚

安大成の重慶地の人あり父孝廉早く卒しぬ弟の一成と云と年いおと
 幼し大成が妻の陳氏ぬ字を珊瑚とて大成が母の沈氏あり其性ひびと
 と情あむと常ぬ珊瑚を罵辱むと珊瑚死ぬる色を為と朝とぬ早く起
 身の妝ひと夫姑ぬ見ゆ折し大成をうと疾とぬ母ぬ珊瑚の淫を
 誨るありと痛く詬責珊瑚ぬ汝を為と進ぬ母ぬ怒るあり
 甚大成ぬ孝子ありと呵と珊瑚を鞭ぬ母の怒少く解く此の母
 まま珊瑚を憎む珊瑚心を盡し仕とぬ母一笈を交あるあり大成母の
 怒り成知とて常ぬ他所ぬ宿とて妻と共に寝と斯ても母の心をさむとて

物事小付く怒り罵る其意はも珊瑚が身上小あり大成が曰妻を娶るを
 母の仕へしめん為也然るも斯母の心小合さず何を以て妻と為さんと云く遂に
 珊瑚を出さ老嫗を以て送りしめり里門を去んとする時珊瑚泣く曰女子と
 生れし人の婦と為る夏あはれ何を以て我雙親小見ゆ死せしむる外は
 と云く袖の中より剪刀を取かり喉を刺さ老嫗あはれ介抱をせし血溢て
 襟を沾る小至まのかり扶け大成が嬪の家小連は往て預けぬ此嬪を
 王氏中く寡居ゆく居る老嫗帰て大成小告げし大成さると他小漏るる
 ありと云入日を経るうち珊瑚が創を愈く平ふ成ぬと知く大成王氏が門
 小あはれ珊瑚を留め玉入るの無用也と云入王氏中内小入ると云大成今
 ぞとく但珊瑚を逐かさんるをせしむる時珊瑚は大成をんと問く曰

妾何の罪ありとく出さ玉入大成が曰汝母の事るとあはれと云く
 と云入珊瑚答く夏あはれ惟首を俯くと泣く泪あはれとく赤くと
 素衣を紅小染ぬ大成も心苦しとく詞を盡すとく退き帰るぬ
 数日ありと母此由を聞怒り王氏が宅小至り悪言をりく王氏を罵る
 王氏もあはれを沈氏が惡を數へし又曰汝が娘已小離別せし娘小非
 む我陳氏の女を家小養つる安氏の娘を養つるあはれ汝他人の上を言ふ
 るあはれと云沈氏此一言の返さつた刺ち又王氏が勢ひ小かちけ大に哭
 しく家小返すも珊瑚安くと心ひく他所小適入るを思ふ茲も又大
 成が母の姉小干媪と云わす年六十小餘も子とさるぞと唯とさる孫
 と寡あつた媳とのそゆく暮り居る此干媪と珊瑚が志を知るとあはれ

珊瑚王氏の別とて干媪がゆふ来と身を寄と干媪一々其由を問と
 曰我妹子の昏暴るを起まり我汝を送り還せしと云ハ珊瑚が是
 を止め且吾此處の在るの告玉ふ夏あると云と其より干媪が宅内居
 と日を送り多々珊瑚兩人の兄あや聞と憐ぶと外嫁せしめんと欲され
 とを珊瑚あつに従ふと唯干媪が傍の在と紡績を事とて日を度とせり
 大成婦をかくと後母所くの人を頼と大成が為の婦を迎へんとせども母
 の心悪きものを人傳と噂しと誰人う婚を為さん然るやふ二四年を
 過しぬるやふ二成を生長と臧姑と云る妻を迎名と此臧姑驕悍を
 夏母の倍せり母怒るの色を以とせし臧姑怒るの聲を以とせし二成懦弱
 小く妻の言ふのと従ふ是より母の威漸く臧姑と反と嫁の意然と云

とせども臧の意の叶ふ難し臧姑母を使ふ夏婢の如くと大成敢て言
 お母と相對しと位の母遂に鬱積の疾のうむと床の臥を起臥の介抱
 と大成一人めと為せ晝夜寐る夏能て両眼盡赤く是より弟を呼と
 介抱を為しめんとせし弟室の入るを早く臧姑喚と外に去らむ大成
 せんま無く干媪を頼と母の介抱をせんとて干媪が門の内と位と其事
 をい折ると珊瑚幃中より出たり成と大成大の慚と云とて出んとせり
 と珊瑚両より扉をきんと大成急の道とぞ出行けるとせども家内
 歸と此由を語らざりたりと干媪来ると病を看るの母喜と此を止め
 と宿せし是より日毎干媪が家くる人をかせ上れた食を干媪がゆふ送
 る干媪の言を傳へて心を費するものと云とせども食を送るの休む

時^{とき}干^の媪^{あやう}此^{この}食^けを^を病^{びやう}者^{もの}の^の進^{すす}む^ま病^{びやう}を^をと^とり^り宜^{よろ}き^き時^{とき}干^の媪^{あやう}が^が孫^{まご}母^{はは}の^のり^りひ^ひつ^つり
 ろ^ろと^とく^く佳^よき^き食^け物^{ぶつ}と^と持^もち^ち来^き来^き疾^{はや}い^いん^んと^と問^とふ^ふ沈^{しん}氏^し歎^{なげ}ふ^ふと^と曰^いふ^ふ賢^{けん}者^{もの}也^{なり}此^{この}
 婦^{むすめ}あ^あ何^{なに}の^の幸^{さい}有^ある^る斯^{しか}る^る媳^{よめ}を^を得^え玉^{たま}つ^つる^る干^の媪^{あやう}が^が曰^いふ^ふ妹^{いもうと}は^は女^{むすめ}不^ふ公^{こう}を^を得^え媳^{よめ}
 如何^{いかん}あり^り沈^{しん}氏^しが^が曰^いふ^ふ珊瑚^{さんご}の^の弟^{あに}の^の婦^{むすめ}の^の如^{ごと}く^くあり^りと^と然^{しか}る^るを^を甥^{せう}婦^{むすめ}の^の賢^{けん}也^{なり}
 及^{およ}び^び干^の媪^{あやう}が^が曰^いふ^ふ珊瑚^{さんご}が^が在^あり^り時^{とき}ハ^ハ女^{むすめ}苦^{くる}勞^{らう}を^を知^しら^らず^ず汝^{なんぢ}怒^{いか}れ^れと^とも^も珊瑚^{さんご}怒^{いか}れ^れ
 とい^いふ^ふぞ^ぞ我^{われ}婦^{むすめ}及^{およ}び^び干^の媪^{あやう}と^とい^いふ^ふ沈^{しん}氏^しは^は悔^くみ^みと^と曰^いふ^ふ珊瑚^{さんご}ハ^ハ嫁^{よめ}せ^せず^ず未^{いま}嫁^{よめ}せ^せず^ず
 や^や答^{こた}へ^へ曰^いふ^ふ我^{われ}も^も知^しら^らず^ず人^{ひと}の^の訪^まり^りと^と云^いふ^ふ數^{かず}日^{にち}あり^りと^と病^{びやう}全^{ぜん}く^く癒^いけ^けは^は干^の媪^{あやう}歸^{かへ}り^り
 ら^らんと^とす^する^る沈^{しん}氏^しは^は留^{とど}め^めと^と曰^いふ^ふ妹^{いもうと}去^いり^り玉^{たま}つ^つる^る我^{われ}死^しせ^せら^らん^ん干^の媪^{あやう}大^{だい}成^{せい}と^と
 相^あ謀^{ぼう}す^すと^と二^に成^{せい}と^と居^い宅^{たく}を^を分^わん^んと^と云^いふ^ふ臧^{ざん}姑^こあ^あは^はと^と欲^ほせ^せと^と有^ある^る大^{だい}成^{せい}と^と干^の媪^{あやう}
 媪^{あやう}と^と大^{だい}成^{せい}良^{りやう}田^{でん}を^を以^もつ^つと^と弟^{あに}と^と與^あへ^へん^んと^と言^いふ^ふ臧^{ざん}姑^こ喜^{よろこ}ぶ^ぶと^と子^こひ^ひは^はね

其^{その}時^{とき}家^か財^{さい}を^を分^わり^り多^{おほ}く^くの^の書^{しよ}を^をと^とり^り渡^{わた}し^し干^の媪^{あやう}此^{この}日^{にち}家^かを^を歸^{かへ}り^り翌^{あした}日^{にち}
 車^{くるま}中^{なか}沈^{しん}氏^しを^を干^の媪^{あやう}が^が家^かの^の邸^{てい}に^に來^きて^て先^{まづ}甥^{せう}婦^{むすめ}を^を見^みへ^へん^んと^と云^いふ^ふ
 甥^{せう}婦^{むすめ}の^の德^{とく}を^を譽^{ほめ}ふ^ふ事^{こと}を^をり^り干^の媪^{あやう}が^が曰^いふ^ふ小^こ女^め子^こ善^よく^くと^と有^ある^る少^{すく}少^{すく}の^の疵^{きず}
 あり^りと^と干^の媪^{あやう}は^は是^{これ}を^を憐^{あは}れ^れと^と思^{おも}ふ^ふと^と我^{われ}媳^{よめ}の^の如^{ごと}く^くあり^りと^と云^いふ^ふ
 憐^{あは}れ^れと^と長^{なが}く^く保^{たも}つ^つる^る能^{あた}り^りと^と沈^{しん}氏^しが^が曰^いふ^ふ是^{これ}ハ^ハ不^ふ寛^{かん}なり^{なり}我^{われ}豈^{いか}鼻^びと^と香^{かう}と^とを^を知^しら^らん^ん
 や^や干^の媪^{あやう}が^が曰^いふ^ふ珊瑚^{さんご}が^が如^{ごと}く^く有^ある^る者^{もの}を^を追^おひ^ひ出^だし^しと^と念^{ねん}ふ^ふる^るも^も無^なき^きは^はと^と言^いふ^ふ所^{ところ}を^を去^いり^り
 ぞ^ぞ沈^{しん}氏^し曰^いふ^ふ珊瑚^{さんご}の^の如^{ごと}く^くあり^りと^と我^{われ}の^の念^{ねん}ふ^ふる^る干^の媪^{あやう}が^が曰^いふ^ふ然^{しか}る^るを^を言^いふ^ふ所^{ところ}を^を去^いり^り
 さん向^{さん}の^の遺^いる^る所^{ところ}の^の食^け并^{なら}び^び病^{びやう}中^{ちゆう}の^の事^{こと}を^を助^{たす}け^ける^る者^{もの}ハ^ハ我^{われ}媳^{よめ}也^{なり}非^ひず^ず汝^{なんぢ}が^が媳^{よめ}あり^り
 沈^{しん}氏^し驚^{おど}ろ^ろと^と其^{その}説^{せつ}を^を問^とふ^ふ干^の媪^{あやう}が^が云^いふ^ふ珊瑚^{さんご}我^{われ}家^かに^に在^ある^る久^{ひさ}し^し是^{これ}事^{こと}を^を汝^{なんぢ}に^に送^{おく}り^り
 する^るの^の人^{ひと}皆^{みな}渠^かが^が夜^よに^に積^たむ^むる^る料^{りやう}め^めと^とせ^せり^りと^と沈^{しん}氏^し聞^きく^くと^と泪^{なみだ}を^を流^{なが}す^す

我何を以てう媳の面を合せんと云干媪珊瑚を呼ぶ珊瑚湯を合と地伏
 しく禮をさそ母のこく慚とさう胸を打ち干媪之を止む遂初の如
 姑媳とあり十日をり止居と遂誘ひ連ざると家の歸りたり大成の家
 内へ薄田いさう持て其日を暮る足らざ二成が家の大ぬ富とわと
 大成が貧を助け兄弟垣を隔て住居と成さぬ減姑がさうさ母
 ぬ及ばざり多とさ生とつさる虐心と夫を始め婢を罵ると甚く
 婢遂に経と死と婢が父減姑を官ぬ訟ふ二成婦代と官ぬ出のり
 と大ぬ呵責を受く減姑も減を受と十指の肉とぐく脱せり二成田自
 と質とありとさひひしく慚く釋とさ家ぬ歸りぬ其後債家の催促
 堪む是非なく良田を以て村中なる任翁と云者ぬ瀧く任翁田の半大

成が譲とる所とさ大成を呼と券の判をさ大成任翁がのり至時
 任翁忽に氣色かち大成ぬ向と我ぬそ女が父の安孝廉と任某何
 者とさ今吾田地を買んとすると云と又曰眞間女夫妻の孝ぬ感ト
 暫時汝等ぬ逢るを赦せり大成曰父靈ぬ移ぐり吾弟を救王の
 父曰逆子悍婦惜ぬ足らぬ女家ぬ歸らぬ速ぬ金をとるぬ吾血産を贖
 ぬ大成曰母子辛うと世とさ何とぬ多くの金をぬんや父の
 曰紫薇樹の下ぬ金を埋と置と取と用へべと云ぬ再問んとすと
 ぬも又若らぬ任翁夢の醒る如く正氣付ぬと已が言とるを知らぬ
 大成辭と歸る減姑聞とる人をむとすと紫薇樹のぬぬ往と空言を發
 見るぬと磚石のぬ有と金とあり本意と家ぬ歸ぬ大成是を聞と

母と妻と戒め往々視るるありとこの叔父も無事と聞て母竊に
 往々窺ひたる磚石土中雜りてあるものも遂に歸る珊瑚ひき
 づきと往々見る土中悉く白銀あり夫を呼とせしむる果しと
 ぬるや大成も二成を召く均分は瓜分ち各囊に入て歸りて藏姑
 夫が持歸る囊を開るる囊中へ瓦礫のそわも皆人大駭く藏姑
 夫を兄の家へ遣りて窺ひしむる兄金を几上置て母と共に相慶と
 居り入て兄も多くと語る大成も大駭き此金を取て二成も與ふ二
 成往々債家へ返りて兄の徳を賞と藏姑曰身も覺れは誰れ一旦分ち
 取る物も又あらく譲るもの有んやと云て聊之を思ふりとせば次日債主
 が家より僕來りて曰償所の金皆偽金なり此吏官訴へんと云ふ夫婦

色を失ふ中蔵姑曰我元を兄の賢此を不至らんと想つて
 此の汝を殺さん計ありと云二成大懼とて債主往々田島
 を賣りて券を渡し始の彼偽金を取て家へ歸り細中視て銀切
 と改め銀二枚あるを見ざる非葉の如し薄き金や銅を裏する物あり
 藏姑二成と計り断る物を己が家へ留め餘り兄へ返り送る大成其
 意を知らざるが再三譲りて受て二成堅くいふと置て去る大成
 成此金を秤に見ると五兩あり少くは珊瑚命とて其數を満す
 め推乃て債主の家へ至りて弟が入ると田地の代を償ふ債主二成が金
 又似る疑ひとて是を驗見る紋色足らず相違ありと金を収
 めて大成の券を返りて又二成へ兄の金を還りて後意ふ偽金



二成干媪が
家へ来て
大成の誤を
珊瑚ぬしむ
圖



あるはむらうに死るのやわらんと想ひ居るる小兄債主の金を還し舊業成
贖つると聞くと大の之を奇む臧姑又疑ひを生じたる金を掘り時大
成先真金を得て隠し居るべしと云く大成が家の往くをさう罵る
大成此時漸弟が金を返さず故を悟り知し珊瑚臧姑を迎へて笑つて曰
産へ固るも此の在り何ぞ怒り成るかと云く夫をいと券を出させ臧姑
小渡し遣り此夜二成が夢の父来と責く曰汝不孝不弟あり一寸の地も
汝が物と為る非ざる然る我強くと云め取んとするやと云く怒る事甚しと
見と醒と後臧姑の語りまく田畠を兄の返えと云く臧姑愚ありと云く
唾ふ時の二成兩人の男子あり何れも無く長男痘を病と死る臧
姑夫の夢を想ひ合せ懼と云く二成をいと券を兄の贈らむ大成受む又

幾れども無く次男又死るを臧姑の懼も自券を嫂のわら持ち往と
置と歸りぬ春まで盡んとすは田を耕さ者存る大成已度を得
どしと之を殖種臧姑此より行を改め母の仕へて孝を致し嫂を敬とも亦
至且半幸を過ぎ母病と卒を臧姑哭し慟と曰姑早く死し我
をいと事あるの成ねどしむ是天我不孝の贖を許し玉の也と云く哭
けり臧姑産する十度あるは皆育さず遂に兄の子を以て子とす
大成夫婦皆壽を以て終ると云く三子を生る皆進士と云く舉ら入是を
孝友の報ありと云く



通俗排悶録卷之一軸

